

授業改革推進リーダー・推進員からの情報提供

～「対話的な学び」をテーマとした実践交流及び県外先進校の取組紹介～

本号では、授業改革推進東備チームが県外視察で得た、授業改善に、授業者の視点で取り組むのみではなく、生徒に学習者としての自覚や成長を促す視点を与えながら、多面的にアプローチしている実践例を紹介します。

生徒が参加する授業づくり(岐阜市立陽南中学校の取組)

岐阜市立陽南中学校では、学校全体で「生徒と共に授業を創り上げる」取組が進められており、生徒にも学習者としてあるべき姿を考えさせ、生徒がその考えに基づいてPDCAサイクルを回せるよう、時間や場を保障することで、主体的に学ぶ姿を引き出していました。教師は、生徒が考えた学習者としてのあるべき姿を実現するための授業づくりを行うことで、生徒が主体的に学習できる授業改善につなげる取組を行っていました。

全校集会

校内研究テーマを生徒と共通理解

全校集会で、授業改善に向けた具体的な取組を、教師と生徒とで共通理解する機会を設け、教師と生徒が一緒により良い授業を目指している。

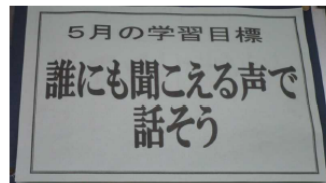
共通理解した具体的な取組の例は次のとおり。

- ① 目標を設定して取り組むこと
- ② どの学習・活動も意味のある話し合いをすること

学習係長会

毎月の「学習目標」を生徒が設定

生徒の組織である学習係長会が①、②に関わった月の学習目標を設定して全校に放送し、それを受けて各学級の学習係長が、自分の学級の実態に応じた目指す授業の姿と達成の観点を設定し、学級に提案する。1か月間で各学級が目標の達成に向けて様々な取り組みを行う。



各学級の学習係長

【例】〔全校〕9月の学習目標 「反応しながら授業に参加しよう」

〔各学級〕

目指す授業の姿
達成の観点

仲間の声を最後まで聞き、反応の声を大きくする姿。
話している方に体を向けて、大きな声で反応ができたか。

各学級の教科係

「目指す授業の姿」を生徒が設定・評価

学級の学習係長が提案する月間の学習目標をもとに、学級の教科係は自分の担当する教科の授業ではどんな姿を目指せばよいのかを考え、短学活（帰りの会など）で提案する。その提案を大切に、各教科の日々の「目指す授業の姿」の設定や振り返りを行う。



実際に、授業の前に生徒が前に立ち、その授業における「目指す授業の姿」を発表し、授業後にはその目標の振り返りを述べていた。

学習評価の日

生徒主体の「学習評価の日」を設定

学習係長会が毎月行われ、各学級や各学年において、「学習目標」を達成するための手立てを交流している。また、「学習目標」の達成度や学習評価の状況を確認することで、全校や学年での意欲の高まりを実感し、次の課題を見つける。

これらの取組の過程を振り返る日を月末に「学習評価の日」として位置付け、成果と課題を生徒自身が明らかにする。